

会 告

農業土木学会第 39 回通常総会開催について	93
平成 18 年度「研究グループ」の助成金募集について	93
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	93
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について.....	94
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	95
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ	95
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！	96
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「農業土木学会誌」平成 19 年春季用の表紙写真の募集	96
新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集.....	97
国際水田・水環境工学会 2006 年（第 4 回）国際研究集会の開催について 	98
第 63 回農業土木学会京都支部研究発表会の開催について（第 1 報） 	98
第 5 回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議 	99
第 19 回水文・水環境研究部会シンポジウムのご案内（第 1 報） 	99
学会記事	101

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 り 4 ページ厳守)
74 巻 6 号 関東地方の農業農村整備事業（仮）	公募なし	
7 号 湿原・湿地の管理と環境保全Ⅰ 湿地の特性と湿原保全のための湿原管理	公募終了	
8 号 湿原・湿地の管理と環境保全Ⅱ 湿地としての農地管理	公募終了	
9 号 圃場整備と農業生産法人（仮）	公募終了	平成 18 年 4 月 14 日
10 号	公募なし	
11 号 モニタリング技術の最前線（仮）	公募終了	平成 18 年 6 月 15 日
12 号 北海道における大規模畑地整備（仮）	公募なし	平成 18 年 7 月 14 日
75 巻 1 号 「水土の知」について（仮）	公募なし	平成 18 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 新潟中越地震関連（仮）	平成 18 年 8 月 25 日	平成 18 年 10 月 13 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集がテーマは仮題となっておりますものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

第 74 巻 6 号予定

展望：地域住民と一体となった国土土地改良事業の推進：美濃真一郎

小特集：関東地方の農業農村整備事業

「みかん王国静岡」の復活に貢献する樹園地整備：石田 敦志

栃木県における環境配慮への取組み：秋山 貴之

山梨県峡東地域の生産基盤整備：福島 一郎

農業農村整備を契機とした地域資源の創造（開成北部地区）：尾登 博文他

干潟八萬石の農業再生を築く：井上 俊也

多摩川におけるハーフコーン型魚道整備の取組み：仙波 政男

埼玉県における農業用水の歴史と利用について：早川 良男

善光寺用水の改修 願いよ届け！ホテル保護への挑戦：甲斐 貴光

霞ヶ浦用水を活用した産地づくり：發出 岳司

清水（せいすい）で潤う赤城の西麓：酒井 一夫

技術リポート

北海道支部：地域特性を考慮した環境配慮の検討について：田中 宏征他

東北支部：環境に配慮した盛土の施工事例 浚渫泥土と故紙の活用：中西誠二郎

関東支部：地すべり地域内の圃場整備：小橋 純他

京都支部：ノンステーキング工法による矢板打設：宇野 健一

中国四国支部：広域農道工事中における環境との調和への取組み：高田 善雄

九州支部：コンクリート構造物における温度ひび割れについて：池森 龍一

講座：水土文化への誘い（その 4）水土文化の見方モノを見よう 2：松本精一

小講座：屋上緑化：加藤 誠

私のビジョン：農業について考えてみませんか 小島 信彦

農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成18年8月 8～11日	大会運営委員会	平成18年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73巻12号 74巻1号3号
平成18年8月	農業農村情報研究部会	企画セッション	農業イノベーションと農業農村情報研究	宇都宮大学	
平成18年8月	応用水理研究部会	企画セッション	農業土木分野における応用水理学研究の課題	宇都宮大学	
平成18年8月	水文・水環境研究部会	企画セッション	水文・水環境研究と大気との接点	宇都宮大学	
平成18年8月	水土文化研究部会	企画セッション	様々な水土の知	宇都宮大学	
平成18年8月	材料施工研究部会	企画セッション	「材料と施工」に関する最新の話 農業土木の美務と研究における	宇都宮大学	
平成18年8月	畑地整備研究部会	企画セッション	畑地かんがいの現況と今後の課題	宇都宮大学	
平成18年8月	農村生態工学研究部会	企画セッション	生態系配慮技術の向上に向けて	宇都宮大学	
平成18年8月末	資源循環研究部会	平成18年度研究発表会	(未定)	パシフィコ横浜	
平成18年9月7日	畑地整備研究部会	第45回畑地かんがい研究集会	(未定)	岩手県盛岡市	
平成18年9月 7日～8日	農村計画研究部会	第28回現地研究集会	水土で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ	熊本テルサホテル	
平成18年10月 15日	土壌物理研究部会	第45回研究集会	期待される土壌物理学(仮題)	北海道大学(予定)	
平成18年11月 9日～10日	京都支部	第63回支部研究発表会 		大阪リバーサイドホテル	74巻5号
平成18年11月 16日～17日	水文・水環境研究部会	第19回シンポジウム 	農林地および広域の水文・水環境	鳥根大学	74巻5号
平成18年11月末	農業水利研究部会	平成18年度研修会	(未定)	東京都	
平成18年12月 (予定)	応用水理研究部会	講演会	(未定)	(未定)	
平成19年2月 (予定)	材料施工研究部会	第44回シンポジウム	構造物の損傷に関する非破壊探査(予定)	兵庫県神戸市(予定)	
平成19年3月	水土文化研究部会	シンポジウム	水土文化研究の現在(仮題)	つくば農林団地(予定)	

農業土木学会学会第 39 回通常総会開催について

社団法人農業土木学会定款第 27 条により、第 39 回通常総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第 27 条 4 項により、正会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、本号巻末に掲載しています。

記

日 時 平成 18 年 5 月 17 日 (水) 15:00~16:00

場 所 農業土木会館 6 階大会議室

議 案 1. 平成 17 年度事業報告

2. 平成 17 年度収支決算

3. 平成 18 年度事業計画

4. 平成 18 年度収支予算

5. 名誉会員の推挙

6. 第 20 期役員を選任

平成 18 年度「研究グループ」の助成金募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は、原則 1 件 20 万円程度 3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 18 年 6 月 30 日 (金) ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式 (学会 HP 参照) で研究委員会委員長宛にお申込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

- 1 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
- 2 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
- 3 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
- 4 助成対象：申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者 (本学会員) をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 36 歳未満であること。

- 5 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断

される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対

応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野: 水理, 水文・気象, 土壌物理, 土質, 地質・地理, 環境, 地域(農村)計画, 一般, 灌漑排水, 農地造成, 農地整備, 農地保全, 水産土木, 材料・施工, 農業機械, 集落排水, その他

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について

農業土木学会行事企画委員会
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

行事企画委員会と継続教育機構は平成17年10月より、通信教育の試行を行ってきました。試行に参加いただいた会員各位に感謝申し上げます。試行に多数の会員が参加いただき平成18年4月より本格実施を行う予定でしたが、残念ながら参加者は少数に留まりました。そのような状況の原因を探るため、通信教育制度に関する緊急アンケートを実施したところ、参加希望者は多いものの、通信教育制度が多くの方に認知されていないこと、また、制度についての正確な情報が不足していることが分かりました。

そこで、平成18年4月から10月までの6カ月間試行を延長し、より広く情報を伝えることといたしました。延長試行期間中いつでも参加可能です。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

1. 参加会員の募集

この試行に参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX 03 5777 2099 へ送信してください。

今回の試行が成功し、本格運用へ移行するためには、多くの会員の参加が必要です。しかし現在、少数であり本格実施のために、周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加をお願いします。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申

込み下さい。

2. 申込期限

この試行への参加は、いつからでも可能です。短期間であっても参加し、意見をお寄せ下さい。

3. 試行の事務局

試行の事務局は、機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

4. 試行の内容

3カ月前の学会誌の報文を主体に機構試行部会が作成した問題を毎号学会誌に掲載します。

問題は択一式とし、5月からは毎回10問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDが与えられ、継続教育記録として自動的に登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 試行の評価と本格運用への移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、修正を加えた上で本格運用に移行したいと考えています。

なお、農業土木学会誌4月号より継続教育機構の広報ページ「CPD ニュースレター」に掲載しています。是非ご参照下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol.4 No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発表されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)

- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお祝いと 編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol.4 No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発表されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転: 2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが、2006年1月1日からは新Editor in Chief; 中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間(～2008年12月31日まで)、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panelの構成メンバー(編集体制)および新投稿先が下記ようになります。

ただし、2005年12月末までに投稿された原稿は、日本(農業土木学会)の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制 2006.1.1~2008.12.31)

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors 13カ国から14名
- Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷上がり1ページ(1,800字程度)**で、写真を1~2枚程度入れてください。

私の勤める本は、原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい）

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「農業土木学会誌」平成19年春季用の表紙写真の募集

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で、学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち、特に春季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさ

らされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも漂

として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真で紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで六ツ切り。デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成 18 年 6 月 30 日（春季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選びます。

7. 結果発表

学会誌 75 巻 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 19 年度大会会場でパネル展示します。

8. 賞品

入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお送りします。

9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）を記入して下さい。対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4 (社) 農業土木学会
農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集

農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第 1 弾として会員の松本（独）農業工学研究所理事が投稿された「(京都の) 桂川「一の井堰」物語」を掲載しております。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募っておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめていきたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発売した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、会員の方に親しまれる内容のものを目指したいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様を書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

国際水田・水環境工学会 2006 年 (第 4 回) 国際研究集会の開催について

テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ()

PAWEES 2006 (4th) International Conference On

Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production ()

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



主催：国際水田・水環境工学会

PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

共催：農業土木学会，韓国農工学会，台湾農業工程学会

趣旨

国際研究集会 [持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理] は，周辺環境との調和に配慮した持続的水田水管理の適切な技術とその応用に関する最新の研究についての情報交換を目的として，以下の内容の下に開催されることとなりました。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み

キーワード：実施事例，機能定量化，社会・経済性評価など

2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理

キーワード：土地利用計画，資源の高度利用，参加型管理など

研究集会では，最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに，水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し，将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに，過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し，食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることとします。

また，日本の研究者・技術者が過去に築いてきた関係国・地域，関係研究機関等との連携を強化し，その他諸国の広汎な連携を推進することも意図しています。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立されました。設立の主な目的は，第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題，なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を，流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに，環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し，その国際化を図

ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

水田・水環境に関連する研究・技術に携わっておられる方々にとっては，意義のある研究集会です。奮って参加されますよう，お知らせいたします。

1. 日 時：2006 年 8 月 10 (木) ~ 11 日 (金)

2. 場 所：宇都宮大学農学部

3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ()

4. 講演発表の募集 (終了しました)

5. 主要なスケジュール

1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始

：平成 18 年 3 月 20 日 (月) (終了)

アブストラクトの提出期限

：平成 18 年 4 月 16 日 (日) (")

原稿採択通知 (E mail)：平成 18 年 4 月 26 ~ 30 日 (")

採択原稿の提出期限：平成 18 年 6 月 30 日 (金)

2) 参加登録：

登録期間：平成 18 年 3 月 20 日 ~ 6 月 10 日

(定員に余裕がある場合のみ，研究集会当日に可能)

参加登録費：5,000 円

講演要旨集は，研究集会当日にお渡しします。

6. 問合わせ先

松野 裕 (PAWEES 2006 事務局長)

近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町 3327 204

メールアドレス：matsuno@nara.kindai.ac.jp

吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4

農業土木会館 3 階 1 号室

メールアドレス：pawees2006@jsidre.or.jp

第 63 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会 日時 平成 18 年 11 月 9 日 (木)
場所 大阪リバーサイドホテル (予定)
(大阪市都島区中野町 5 - 12 - 30)

2. 情報交換会 日時 平成 18 年 11 月 9 日 (木) 18:00 ~ 20:00

3. 現地研修会 日時 平成 18 年 11 月 10 日 (金) 9:00 ~ 15:00

4. 研究発表申込

発表希望者は，投稿原稿に先立ち，表題 (仮題でも可) 発

表者名，所属，年齢 (研究奨励賞対象者のみ)，連名者名，所属，年齢 (研究奨励賞対象者のみ)，希望発表部門 (材料，施工，水文・灌漑排水，環境，農村計画，土質・土壌物理，応用力学) 発表者の連絡先電話番号，発表者の E メールアドレス (利用可能な場合) を記入した申込書 (様式任意) を，E メールか FAX でお送りください。ただし，発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時 35 歳以下の会員（学生会員も含む）によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の授賞基準に該当する方（35 歳以下の連名者を含む）は、必ず申込書に年齢を記入してください。

投稿の詳細な要領は次号第 2 報に掲載いたします。

5. 発表申込先

〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1

岐阜大学応用生物科学部 生物環境科学講座 西村 直正

☎ & FAX 058 293 2883

E mail: nnishi@cc.gifu-u.ac.jp

6. 申込期限

(1) 発表申込 平成 18 年 6 月末日

(2) 原稿締切 平成 18 年 7 月末日

(3) 参加申込 平成 18 年 8 月末日

参加申込については、会誌次号掲載予定の第 2 報を参照してください。

7. 問い合わせ先

大阪府環境農林水産部農政室内

第 63 回農業土木学会京都支部研究発表会運営委員会事務局

担当 永井, 大利

☎06 6944 6034 (直通) FAX 06 6944 6752

E mail: OtoshiM@mbox.pref.osaka.lg.jp

第 5 回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議 (5th International Conference on Educational Accreditation System and APEC Engineers Project for Agricultural Engineering in Paddy Farming Regions) の開催について

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



当会は韓国農業工学会、台湾農業工程学会との共催で平成 14 年より表記会議を開催してきました。第 1 回は WWF のプレシンプジウム、第 2 回は WWF 3 の開催時に京都市で開催、平成 16 年は韓国安山市、平成 17 年は台湾台北市で開催され 3 年振りに日本で下記要領で開催されます。会議における話題提供は、各国学会代表者により行われますが、公開で行います。JABEE、技術士、APEC エンジニア等、技術者資格に興味のある方々の参加を募ります。会場の準備もありますので、希望者は当学会事務局にお申込み下さい。

記

1. 日 時 平成 18 年 8 月 11 日 (金) 13:30 ~ 17:00

2. 場 所 宇都宮大学多目的ホール (平成 18 年度農業土木学会大会講演会第 1 会場)

3. 議 題

議題 1. 技術者教育認定システムについての各国報告

(台湾、日本、韓国から報告予定、日本からは JABEE

の最近の動きについての報告を予定)

議題 2. APEC エンジニアをめざした技術者育成についての各国報告

(日本、韓国、台湾から報告予定、日本からは CPD 機構、APEC エンジニアをめぐる動きについての報告を予定)

議題 3. 水田農業地域における農業工学の技術者のための教科書出版について

(各国技術者に共通的な教科書出版の必要性、計画について議論する予定)

4. 事務局

〒105 - 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業土木学会 調査研究部

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail: tkiku@jsidre.or.jp

第 19 回水文・水環境研究部会シンポジウムのご案内 (第 1 報)

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 18 年 11 月 16 日 (木), 17 日 (金)

車 (所要時間約 15 分)

2. 会 場 島根大学生物資源科学部 1 号館 2 階 203 会議室 (予定) (〒690 8504 島根県松江市西川津町 1060)

JR 松江駅北口より

市営バス 1 番乗り場発着 北循環線内回り乗車、島根大学前下車 (所要時間約 15 分)

2 番乗り場発 大学・川津行き乗車、島根大学前下車 (所要時間約 20 分)

一畑バス 2 番乗り場発 美保関ターミナル、東高校、ソフトビジネスパーク各方面行き乗車、島根大学前下

3. プログラム (予定)

11 月 16 日 (木) 12:30 ~ 13:25 受付

13:30 ~ 17:30 研究会

18:00 ~ 20:00 情報交換会

11 月 17 日 (金) 9:30 ~ 12:30 研究会

4. 講演内容 農林地および広域の水文・水環境

5. 講演時間 1 課題 30 分程度 (質疑応答も含む)

6. 参加費 1,000 円 (講演要旨となります部会誌「応用水文 No.19」の代金を含む)

